

KAYABA RALLY TEAM

2026 ALL JAPAN RALLY CHAMPIONSHIP REPORT #5

2026/7/10~12 北海道蘭越町

Rd.5

2026 ARK ラリー・カムイ



スペシャルステージ

SS数: 11

路面: グラベル / 一部ターマック

総走行距離: 409.57 km

SS距離: 107.53 km

LEG1 7/11(土) 天候: 雨 / 路面: ヘビーウェット

SS1	NEW SUN RISE 1	3.63 km
SS2	SPRING WATER 1	14.84 km
SS3	OAK 1	4.46 km
SERVICE A (45 min)		
SS4	NEW SUN RISE 2	3.63 km
SS5	SPRING WATER 2	14.84 km
SS6	OAK 2	4.46 km
SERVICE B (45 min)		

LEG2 7/11(日) 天候: 雨 / 路面: ウェット

SERVICE C (15 min)		
SS7	STREAM LONG 1	23.06 km
SS8	KNOLL 1	7.55 km
SERVICE D (45 min)		
SS9	STREAM LONG 2	23.06 km
SS10	KNOLL 2	7.55 km
SS11	SSS NEW POWER SENMU	0.45 km
SERVICE E (10 min)		

SS1/4	NEW SUN RISE	サービスパークから最も近くに位置する全面グラベルのステージ。毎年使用される定番コースで、比較的固くスムーズな路面が特徴。コース中盤のヘアピンにはギャラリーポイントが設定される。
SS2/5	NEW SPRING WATER	羊蹄山の北東側を走行する。前半4kmはハイスピードグラベル、中盤は狭い中低速コーナーが主体。路面がターマックとグラベルに頻繁に入れ替わり、路面の変化に柔軟に対応する力が求められる。終盤3kmは狭いかつ高速な肝試し区間。
SS3/6	NEW OAK	SPRING WATERの南側に位置する、今年新規で設定されたステージ。狭くテクニカルなステージで、路面が粘土質のために雨が降ると非常に滑りやすくなる。
SS7/10	NEW STREAM LONG	過去に使用されたSTREAM、HOT SPRING、ORCHID SHORTを1本に繋げたロングステージ。全体的に道幅は広めだが、2ループ目の走行時には深い轍が残りやすい。
SS8/11	KNOLL	2025年と同様のステージだが、数百メートル短縮された。テクニカルな低中速なオールグラベルで、加減速が大きく深い轍が出来やすい。轍を的確に使用したコーナリングが求められる。
SS9/12	NEW SSS NEW POWER SENMU	土木工事・建築工事業を営む株式会社志比川組の敷地内を使ったギャラリーステージ。ステージ内には志比川組謹製の特設立体交差が設けられる。



全体図



チーム体制



監督: 榎本 一憲

ドライバー: 石黒 一暢

コ・ドライバー: 穴井 謙志郎

メカニック: 増谷 大志 / 松田 幸也 / 三國 大河

エンジニア: 古川 優太

マネージャー: 池戸 敬也

チームアドバイザー: 奴田原 文雄 (NUTAHARA Rally Team)

メカニックアドバイザー: 山田 淳一 (RUTS RACING)

リザルト

リタイア (JN-1クラス10台 / 総合50台 参加)

クラス	No.	Dr.	Co-Dr.	参加車両名	車両型式	車両区分	LEG 1							LEG 2							総合計	クラス 順位	総合 順位	
							SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	SS6	Penalty	合計	SS7	SS8	SS9	SS10	SS11	Penalty				合計
JN-1	1	鎌田 卓麻	松本 優一	Castrol TEIN DL ファビア	ABCUFX11	FIA	2:23.6	10:46.3	3:45.4	2:30.4	10:45.8	-		30:11.5	15:52.7	6:13.7	16:08.5	6:21.4	0:31.3		45:07.6	1:15:19.1	1	1
JN-1	3	新井 大輝	立久井 大輝	R2R×YAHAGI GRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	2:24.8	11:14.7	4:02.7	2:25.4	10:30.2	-		30:37.8	15:37.0	6:12.5	16:11.5	6:15.2	0:31.3		44:47.5	1:15:25.3	2	2
JN-1	4	奴田原 文雄	東 駿吾	ADVANKTMSGRヤリスRally2	MXPA12	FIA	2:25.0	10:39.8	5:36.0	2:28.7	10:49.6	-		31:59.1	16:02.9	6:20.6	16:21.2	6:23.6	0:30.7		45:39.0	1:17:38.1	3	3
JN-1	8	大竹 直生	橋本 美咲	MATEX-AQTECGRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	2:32.8	11:37.8	3:59.0	2:33.1	11:19.1	-		32:01.8	16:16.0	6:30.5	16:38.3	7:30.6	0:40.2		47:35.6	1:19:37.4	1	4
JN-1	13	新井 敏弘	安藤 裕一	Boxer Rally spec.Z	ZD8	ASN	2:29.1	10:57.8	4:11.9	2:35.8	10:59.4	-	4:10	35:24.0	16:11.5	6:23.3	16:31.3	6:36.3	0:34.6		46:17.0	1:21:41.0	2	5
JN-3	10	大倉 聡	豊田 耕司	AISIN GR Yaris DAT	GXPA16	RJ	2:44.1	11:49.4	4:15.1	2:42.6	12:06.9	-		33:38.1	17:38.8	6:55.9	17:55.0	7:02.5	0:34.6		50:06.8	1:23:44.9	3	6
JN-1	11	松岡 孝典	竹下 紀子	MATEX-AQTEC DL GRヤリス	GXPA16	ASN	2:43.2	12:11.6	4:10.2	2:41.7	12:05.3	-		33:52.0	17:45.7	7:08.1	17:58.4	7:03.6	0:35.8		50:31.6	1:24:23.6	4	7
JN-3 (MCC)	17	長尾 綱也	尼子 祥一	DL WPMS GRヤリス	GXPA16	RJ	2:45.1	12:02.9	4:15.7	2:45.6	12:10.8	-		34:00.1	17:53.3	6:52.0	18:14.2	7:00.3	0:33.4		50:33.2	1:24:33.3	5	8
JN-3	16	マクリン大地	大橋 正典	大阪冷研TOFインディゴPマクリンGRB	GRB	RJ	2:44.1	12:15.2	4:15.3	2:43.3	12:13.6	-		34:11.5	17:55.8	6:54.4	18:02.8	7:04.0	0:34.5		50:31.5	1:24:43.0	6	9
JN-3	15	石川 昌平	坂井 智幸	ARTAオートボックスGRヤリス	GXPA16	RJ	2:45.0	12:02.1	4:28.6	2:45.5	12:40.7	-		34:41.9	18:02.3	7:00.2	18:09.8	6:59.1	0:35.5		50:46.9	1:25:28.8	7	10
JN-3	12	長江 修平	石川 美代子	インディゴパワー・DL・BRIGランサー	CZ4A	RRN	2:46.2	12:06.1	4:22.3	2:47.4	12:20.9	-		34:22.9	18:00.5	6:59.7	18:42.2	7:09.0	0:35.3		51:26.7	1:25:49.6	8	11
JN-3 (MCC)	25	三枝 聖弥	木村 裕介	IMSFDLGRヤリス初号機	GXPA16	RJ	2:48.1	12:17.4	4:29.5	2:55.3	12:48.1	-		35:18.4	17:56.6	7:04.1	19:02.5	7:39.7	0:36.4		52:19.3	1:27:37.7	1	12
JN-4	27	上原 淳	湊戸 あゆみ	埼玉スバルDLカヤバ・シャフトスイフトS	ZC33S	RJ	3:01.7	12:40.0	4:35.0	2:58.2	12:54.8	-		36:09.7	18:46.3	7:24.0	19:06.8	7:42.6	0:40.1		53:39.8	1:29:49.5	2	13
JN-4	21	曾根 崇仁	小川 由起	PMU☆DL☆INGING☆GR86	ZN8	RJ	2:57.7	12:55.3	4:41.5	2:55.3	13:00.3	-		36:30.1	18:42.4	7:37.3	18:51.9	7:44.9	0:38.6		53:35.1	1:30:05.2	9	14
JN-1	6	石黒 一暢	穴井 謙志郎	カヤバ YH GRヤリス	GXPA16	ASN	2:38.1	12:03.8	4:27.1	2:40.7	13:45.0	-		35:34.7										リタイア

LEG 1

SS1 NEW SUN RISE 1 3.63 km

走行タイム 2:38.1 ステージ順位：クラス 7位 / 総合 7位 合計タイム順位：クラス 7位 / 総合 7位

全50台、JN-1クラスは10台で争われた。SS1は昨年と同一のステージレイアウトで、3.6kmと短いこともあり自信を持ってスタート。天候は少雨だったが、前日に激しく振った雨によりコースはウェット。ところどころ深いぬかるみも見られた。事前テストで煮詰めた車両セッティングがうまく決まり、快調なペースで走行。車両性能がほぼ同等となるJN-3車両に負けないクラス7位/総合7位でスタートを切った。



SS2 SPRING WATER 1 14.84 km

走行タイム 12:03.8 ステージ順位：クラス 8位 / 総合 12位 合計タイム順位：クラス 8位 / 総合 10位

全体の約80%は昨年も使用した林道だが、強まる雨足が昨年以上の難しさを演出した。グラベルとターマックが頻繁に入れ替わるため、路面の見極めと状況に応じた走法の切り替えが重要となる。序盤は良いペースで走行できたものの、中盤を過ぎた地点で左リアがパンクしてしまう。フィニッシュまでパンク状態で走り切ることを選択したが、不安定な車両挙動を抑えるためペースダウン、タイムロスを喫した。



SS3 OAK 1 4.46 km

走行タイム 4:27.1 ステージ順位：クラス 7位 / 総合 12位 合計タイム順位：クラス 7位 / 総合 9位

今年新規設定されたステージ。路面の土質と雨により、非常に滑りやすい箇所が多く、SS3だけで8台のリタイアが発生する超高難度ステージとなった。道の上に留まることを最優先に走行したものの、低速左コーナー出口でスピン。狭い道幅で真横を向いて止まってしまう、復帰までに時間を要し約18秒をロスしてしまう。スピンが無ければ総合4位のタイム相当で、非常に悔やまれるステージとなった。



SERVICE (45min)

SS4 NEW SUN RISE 2 3.63 km

走行タイム 2:40.7 ステージ順位：クラス 7位 / 総合 7位 合計タイム順位：クラス 7位 / 総合 9位

サービスではパンクやスピンによって生じた破損部品の修復を実施。一度は止んだ雨も、SS4スタート前に更に激しく降り、ステージ内はより濡れた難しい路面となった。SS1よりも更に滑りやすくなった路面に苦戦しながらもハイペースで走行。大きなミスなく走りきり、SS1に続いてクラス7位/総合7位の好タイムを記録した。



SS5 SPRING WATER 2 14.84 km

走行タイム 13:45.0 ステージ順位：クラス 7位 / 総合 21位 合計タイム順位：クラス -位 / 総合 -位

序盤から中盤までは好調なペースを維持していたが、滑りやすいターマック区間でコースオフし、約1分をロス。その後は完走を優先してペースを抑えたものの、緩い右コーナー出口で姿勢を乱し、立て直す際に右リアがガードロープの支柱に接触、足回りを大きく損傷して3輪状態となった。そのままステージは完走したものの競技続行は不可能と判断。修復も困難な状況であったため、無念のリタイアを決断した。



PHOTO GALLERY



MEMBER's VOICE

DRIVER 石黒 一暢 - Ishiguro Motonobu -



グラベル2連戦の初戦に向けて、事前テストを含め、チーム全員で入念な準備を重ねてきました。昨年のラリーカムイは車両トラブルに苦しむ結果となりましたが、走行ペースやドライビングには一定の手応えを得られる内容だったため、今年のラリーカムイには自信を持って臨みました。

序盤のステージでは、難しい路面状況の中でも上位に迫るタイムを記録することができ、車両セッティングやこれまで積み重ねてきた準備に対して、確かな手応えを感じていました。一方で、雨によって刻々と変化する路面に対し、最後まで安定した走りを組み立てることができず、最終的には車両を大きく損傷し、リタイアという結果を招いてしまいました。

今シーズン3度目のリタイアとなった事実は、ドライバーとして非常に重く受け止めています。ラリーではさまざまな路面や天候の変化に対応し、車両を確実にフィニッシュまで運ぶことが求められます。特に、難しい状況におけるリスクの見極めや車両コントロールなど、改善すべき点が明確になりました。コンディションの厳しさを理由にするのではなく、そのような状況でも確実に走り切れる判断力と車両コントロールを身につけることが必要だと感じています。

車両の損傷は大きく、次戦に向けて厳しい状況ではありますが、復旧に取り組むメカニックをはじめ、多くの方がこの活動を支えてくれています。その努力を結果として形にできるよう、自分の役割と責任に改めて向き合い、同じ結果を繰り返さないための改善を着実に進めていきます。厳しい結果が続いていますが、ここで立ち止まることなく、チーム一丸となって次の一戦に向けて挑戦を継続していきます。

Co-DRIVER 穴井 謙志郎 - Anai Kenshiro -

ラリーカムイは石黒が特に得意としてきた大会であり、今回は成績を意識し、強い気持ちで臨みました。しかし、豪雨によって路面は極めて滑りやすくなり、多くの車両がリタイアする非常に難しいラリーとなりました。このような状況では、車両を確実にコース上に留め、最後まで走り切らせることがコ・ドライバーとして最も重要な役割になります。

特に危険度の高いステージではペースを抑えて走行してもらっていましたが、それでも最終的にリタイアという結果に至った以上、コ・ドライバーとして果たすべき役割には、まだ多くの改善点があったと受け止めています。危険を早い段階で察知する力、ドライバーの心理状態を把握する力、戦況や路面状況を踏まえて走り方を提案する力など、さらに高めなければならない能力が数多くあります。ペースノートのリーディング一つを取っても、読むタイミング、声の強弱や音程、発声速度、危険箇所の伝え方、走行中の声掛けなど、ドライバーを運転に集中させ、能力を最大限に引き出すために見直すべき要素があります。ノートを正確に読むだけでなく、ドライバーの状態や車両の挙動、ステージ全体の流れを常に把握し、状況に応じて冷静かつ適切にマネジメントする能力を、今後さらに高めていきます。

苦しい流れが続いていますが、本活動の大きな目的の一つは人財育成であり、失敗を恐れず挑戦する姿勢を失ってはいけません。企業活動として取り組む以上、結果に対する責任や厳しさも伴いますが、その厳しい環境だからこそ、強い精神力、冷静な意思決定、正確な情報伝達、状況に応じた判断、周囲との連携といった、業務にも通じる能力を高めることができます。ラリーで得た経験を一過性のものにせず、個人と組織双方の財産として、今後の活動や日常業務へ活かしていきます。



NEXT RALLY

9/4～6 北海道帯広市
RALLY HOKKAIDO

Special Thanks

IK 伊勢湾海運株式会社

CHITA

Takako

Fukoku Tokai

山二産業株式会社

Taiyo 大洋商事

カーメテック

株式会社サイキ

OGISON

株式会社 甲山製作所

HJK
株式会社平原精機工業

TOSHIDA
KOGVO CO., LTD.

UTSUE
UTSUE SEIKI CO., LTD.

NSSI
NAKAGAWA SPECIAL STEEL INC.

三正工業株式会社



株式会社 東海技研

金山カヤバ株式会社

Covalent

IKO 日本トムソン

株式会社 興亜組

林愉快 研究所

AIDO METAL

自由工業

宝駒鍍金工業株式会社

NUTAHARA
RALLY SCHOOL

YOKOHAMA

KTMS

HKS

BRIDE

LAILE

CERAMETA

MOTOR SPORTS OIL
FORTEC

PIAA

AQTEC
INTERNATIONAL

BELL
HELMETS

TONE

Mizuno

SPK
GROUP

TCZ ADVANCE
TAKAGI CHEMICAL LABORATORY

PROSPEC

カヤバラリーチームの活動は
各種SNSにて発信しています。



KYB
Our Precision, Your Advantage
カヤバ株式会社